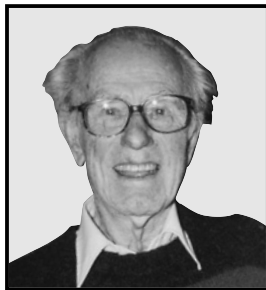


名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 Sven Eketorp 君

日本鉄鋼協会名誉会員、ストックホルム王立工科大学名誉教授Sven Eketorp氏は2004年5月22日逝去されました。享年87歳でした。葬儀は6月10日、ストックホルム市郊外のDjursholm Kapellに於いて厳かに行なわれました。

氏は1916年10月10日スウェーデンStockholmに生まれ、1942年ストックホルム王立工科大学冶金学科を卒業されました。翌年Höganäs社に入社、世界で初めて成功し、現在も操業している海綿鉄の製造に携わり、1949年カナダのOntario Research Foundationに転じ、直接還元法の研究に当たられました。1951年フランスのIRSIDにおいて鉄鉱石還元工程の基礎研究に当たられた後、スウェーデンのStora Kopparbergs Bergslags ABのDomnarfvet製鉄所付属研究所においてBo Kalling教授の下、製錬研究部長の要職に就任、多くの業績を残されました。

1960年、母校ストックホルム王立工科大学、鉄冶金学教授に就任、81年まで21年間後進の指導にあたられました。

氏は教授就任直後から将来の製鉄製鋼法を追求し、既存プロセスを理論的に解明する傍らEketorp-Vallak式溶融還元法を初め多くの新製錬法を提唱、これに関する論文は180を数えています。74年11月には本会秋季講演大会での特別講演「A Proposal for a Future Steelplant and Research Program」は夢多き氏の面目躍如たるものがありました。

また日本の鉄鋼各社より62年より76年まで15年間の長きに亘りEnn-Vallak氏提出の奨学制度により毎年一名若き技術者を受入れ、実践的冶金学の修学の道を開かれました。さらに72年から88年まで日本の大学及び大手各社より6名の研究者を招聘、両国間の技術交流に尽力されました。

さらに氏は67年以降数多くの来日、学界、業界に多くの知己を得られ、1971年現在の日本—ノルディックシンポジウムの前身日本—スウェーデンシンポジウムを創立されました。

学問の分野のみならず、氏は日本人の苦手とするプレゼンテーションでも原稿の棒読み禁止、スライドの簡明化等を厳しく指導されました。

退官後もStora Benhamraの自宅の広いお庭に古代製鉄炉を建設、毎年6月に学生を招いて実操業を指導され、また多くの日本からの来訪者に、ご自分で火を灯れた暖炉の前でSteinwegで弾かれる「さくら、さくら」「荒城の月」は先生の定番でした。

座右の銘とされた「Vi tror på ett liv före döden We trust in life before death」通り、生前日本鉄鋼業界に多くの人材を育てられた先生のご業績は計り知れないものがあります。

昨年12月自宅で転倒、臀部を骨折され、以降入院され、回復に努められましたが、薬石効無く、お別れを余儀なくされました。

しかし先生の御遺徳はご指導を受けた21名の留学生を始め、多くの人々により将来も長く受継がれてゆくでしょう。

ここに名誉会員Sven Eketorp氏の御偉業を偲び、会員一同心からご冥福をお祈り致します。

2004年6月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 半明 正之